

「単独荷卸しに係る運行管理者研修会」の開催状況について

事故防止調査研修センター

協会では、単独荷卸しの作業、運行管理に係る教育担当者等を対象として、単独荷卸しに係る危険物関係法令、単独荷卸しの仕組み、単独荷卸しの作業に係る留意点、異常及び災害発生時の対応等に関する知識の習得を目的とした「単独荷卸しに係る運行管理者研修会（以下「研修会」といいます。）」を平成29年度から開催しております。

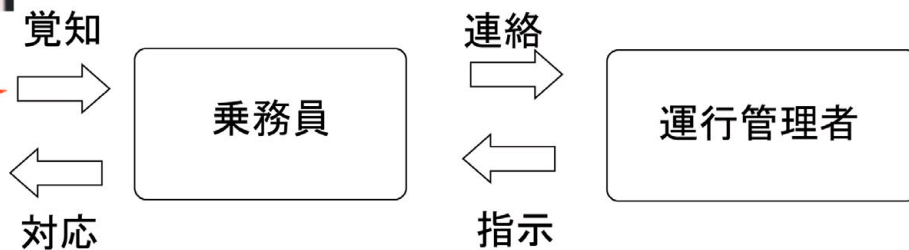
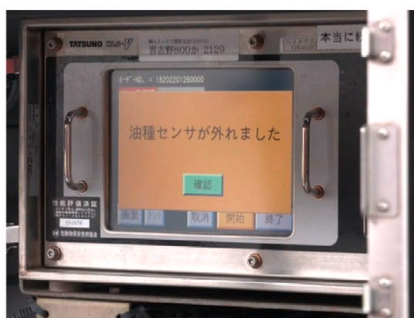
研修会では、座学の他に実務的な内容を習得していただくための演習を組み入れております。従前の演習は、単独荷卸しに関する過去の事故事例を元に制作したビデオ映像を視聴していただき、問題点を抽出し、更に受講者が運行管理者であった場合にどのような対応をするかについて記述していただいた内容に基づいて講師が講評を行うという内容でした。

一方で、過去の事故事例については、単独荷卸しの仕組みに関する評価業務において改善が図られており、事故の発生要因となった「解除カード」や「予備の油種キー」などについては運送業者の車庫等において厳重に管理されるようになったことから、演習の素材として適さなくなってきました。

このようなことから、演習内容を見直し、単独荷卸し時に発生が予想される異常について、受講者の方が運行管理者であった場合にどのような対応をするかについて記述していただき、記述内容に基づいて講師が講評を行うという演習内容に変更し、令和3年度から実施しております。

演習の流れは、異常発生を覚知した乗務員が、運行管理者に異常発生状況を連絡するまでをビデオで視聴していただき、運行管理者として異常に対してどのように対応するかについて記述していただくというものです。

その後、対応の例をビデオ映像でご覧いただき、講師による補足説明、受講者の方が記述された対応等についての講評を行います。



併せて、最近の事故事例についての解説も行っております。

なお、令和5年度から新たな異常事例を演習課題として採用しております。

運行管理者は、異常発生連絡を受けた際に一人で対応しなければならないことが多く、多くの受講者の方が一人で考えることができよかったというご意見をいただきました。

以下にアンケートに記述されていたご意見の一部を示します。

- ・ 映像がありましたので概要が理解できましたが、実際は電話でのやり取りの場合は状況の把握などに時間を要すると感じました。訓練が必要に感じました。
- ・ 定期的に管理者、乗務員教育が必要と思う。事故事例を踏まえて。
- ・ 事故トラブルについては、管理者として冷静に判断しなければならないが、こういった事故事例を参考に自分の引き出しを多く持ち、安全を最優先に対応していきたい。
- ・ 運行管理者目線になりきれなかったが、逆に勉強になった。
- ・ DCD異常への対応 今の時代、車両もハイテク化され、異常警報、ランプ、実際はどう対応して行けばよいか実務に添乗して良く理解するべきだと思った
- ・ 迅速な対応のために、とても勉強になりました。
- ・ 事故事例について、知らない内容も多くあったため勉強になりました。
- ・ 事故等の災害はいつ、なん時に発生するのかわからないので、緊急時には直ぐに対応できるようにしたいと思う。
- ・ 事故事例の中には、正しい手順でないと完全に対策できないものもあり、全ての手順の大切さを感じました。
- ・ 事故事例から学ぶ事も多いので考えさせられる機会になりました。
- ・ 自社以外の事故事例を聞くことが少ないので乗務員への指導にすごく参考になった。
- ・ 明日は我が身、いつ何位が起るかわかりませんので、身に付けられる事は今後共習得し、当社から決して事故、怪我を出さないよう指導に努めたいと思います。
- ・ 普段業務している時に発生しうるトラブルの詳細を経験させてもらい、どういう判断、対処をしていけばいいか、勉強になりました。
- ・ 事故事例は非常に勉強になりました。人的ミスがなければ防げた例も多いので乗務員への周知を行いたいです。
- ・ 現場にあった言語と事例であるので非常にわかりやすいです。再認識できたこと多く、有意義な講習でした。
- ・ 普段の業務でも発生する可能性がある事例なので大変勉強になる演習。
- ・ あらためて対応のやり方を考えた。
- ・ 全体を通じて、図や表を用いたテキストで分かりやすかったです。事故事例研究については、実際に起こり得る事例で大変考えさせられました。
- ・ 演習2において、起こり得ると強く感じた。運送会社だけでは解決できない事例については予め対応策を考えておきたい。
- ・ この演習が、とても具体的であり、この様な時間が多ければ、管理者の力も備わってくるのではないのかなと感じました。

演習については、今後も題材を変えて受講される方々の実務にますます役立つ内容としてまいります。